

昭和 17 年周防灘台風【昭和 17 (1942) 年 8 月 27 日～28 日】

■気象の概要

8月26日に九州に接近した台風（昭和17年台風第16号）は、27日に九州西岸を北上、夜には玄界灘から日本海へ抜け、29日には消滅しました。西日本に広く被害をもたらし、特に山口県南部の沿岸地域の高潮被害が大きかったことから周防灘台風と呼ばれています。

この台風による降水量は、広島県江田島付近などで200mmを超える地域が一部みられましたが、中国地方の大部分は50～100mm、日本海沿岸では10mm程度と多くはありませんでした。しかし、台風が接近した27日午後には東から南東寄りの風が強まり、下関や広島は風速25m/s以上の暴風域、岡山でも15m/s以上の強風域に長時間入っていました。これは、台風の進路の東側（右）にあたる地域では普通にみられる現象です。台風によって発生した災害の結果からみれば、この台風は大規模な高潮災害を引き起こした典型的な風台風といえます。

■各地の気象概要

項目	下関	広島	岡山	浜田	米子
最低気圧(hPa)	966.7	985.0	992.1	974.9	985.1
最大風速(m/s)	34.2	28.2	16.0	21.9	14.2
瞬間最大風速(m/s)	37.8	28.2	23.3	33.0	29.1
総降水量(mm)	49.7	39.6	46.0	21.8	10.0

【出典：中央気象台秘密気象報告、第6巻】※気圧は原典の水銀柱mmをhPaに換算

■被害の状況

この台風は九州～近畿地方に被害をもたらし、全国の死者・行方不明は約1,000人に達しています。その中でも特に山口県の犠牲者はほぼ8割を占める794人にのぼり、明治以降現在に至るまで県下で最多の人的被害を出し、住家や土木関係、農作物被害を含めても突出して大きな被害となっています。

被害のほとんどを引き起こしたのが、台風が山口県に最接近した27日夜からの高潮でした。当時の山口県土木部の文書には「更ニ二十時ニ於イテ實ニ三四米ニノ最高風速ヲ示シ降雨ヲ伴ヒタル颱風ハ猛然本県ヲ席卷シ、加フルニ風速ニ依ル大高潮襲来シ最大満潮面ヲ超過シテ陸地深く侵入氾濫シ、遂ニ未曾有ノ惨禍ヲ招来セルモノニシテ、殊ニ内海沿岸一帯ノ被害ハ最モ激甚ナル惨状ヲ呈セシメタリ」と記されています。

高潮は、台風や発達した低気圧が接近したとき海面が持ち上げられる「吸い上げ効果」と、強風が海岸に向かって吹くことで海水が海岸に吹き寄せられる「吹き寄せ効果」によって発生します。この台風では、接近時刻が



周防灘台風の経路(8月27日)【出典：中央気象台秘密気象報告 第6巻】

■瀬戸内海沿岸の高潮状況

地点	高潮の潮位	発現時刻
山口県	下関市	2.00 20:10
	小月村	4.00 22:30
	小野田	3.62 23:00
	宇部	1.30 20:30
	阿知須	2.00 20:30
	嘉川	3.00 21:20
	名田島	1.80 21:20
	秋穂	2.40 19:17
	防府町	1.50 21:30
	富海村	5.00 19:30
下松町	2.00 20:00	
柳井町	1.50 18:00	
屋代島小松	2.00 22:00	
広島県	広島市	0.87 23:00
	呉市	0.42 23:25
岡山県	笠岡町	0.85 23:30

【出典：中央気象台秘密気象報告、第6巻】

※潮位は当日の満潮位からの高さ、発現時刻は全て27日



山口県宇部市、居能開作を通る小野田線付近の被災状況【宇部市学びの森くすのき所蔵】

不運にも一帯の満潮時刻 22 時とほぼ重なり、大きな高潮となりました。一方、九州の有明海では大潮の干潮時と重なったため大きな被害に至っていません。地形的にみると、山口県の瀬戸内地域では、大きな干満差を利用して江戸時代から海岸堤防を築き、「開作」と呼ばれる南に開けた干拓地の造成が広く行われてきました。これらの海岸堤防は高潮によって多くの箇所が決壊し、地盤の低い干拓地の住家や農地・塩田はことごとく海水に飲み込まれました。さらに宇部地域では、厚東川の堤防決壊により被害が拡大しました。加えて、当時の時代背景として、太平洋戦争勃発の翌年であり、気象報道管制が敷かれており、住民への十分な気象情報の伝達が行われず、高潮の発生が夜中だったことも被害を大きくした要因とされています。

■周防灘台風の主な被害

区 分		単 位	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	中国計	全 国
人的被害	死 者	人	-	1	-	24	708	733	891
	行方不明	〃	-	-	-	-	86	86	110
	負 傷 者	〃	-	5	-	91	559	655	1,438
住家被害	全 壊	棟	3	42	-	479	2,990	3,514	33,283
	半 壊	〃	2	52	-	1,159	9,060	10,273	66,486
	流 失	〃	-	-	-	218	1,996	2,214	2,605
	浸 水	〃	30	-	3,210	43,020	42,165	88,425	132,204

【出典：中央気象台秘密気象報告、第6巻】



山口県宇部市、厚南地区の流失家屋の片づけ作業
【宇部市学びの森くすのき所蔵】



山口県宇部市妻崎開作、西割産業道路（現国道 190 号）の仮締切堤【宇部市学びの森くすのき所蔵】

トピックス

■台風の大きさと強さ

気象庁では台風の勢力を示す目安として、10 分間平均の風速をもとに「大きさ」と「強さ」を表現しています。「大きさ」は強風域（風速 15m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性のある範囲）の半径で、強さは中心付近の最大風速で区分しています。この組み合わせで「大型で非常に強い台風」などと表現しています。かつては「小型」や「並の」という区分も使われましたが、過小評価して災害につながるおそれから現在では使われていません。なお、暴風域とは風速 25m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲のことです。

強さの指標として、過去には中心気圧が用いられ、現在でも台風情報では併せて表示されることが多く、台風の発達程度を示す目安となっています。

近年耳にする「スーパー台風」については、日本の気象庁の明確な定義はありませんが、米軍の合同台風警戒センター（JTWC）では最大風速 67m/s（130 ノット、1 分間平均）以上の台風を呼んでいます（中国・香港などでは 100 ノット=51.4m/s 以上）。

●大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型 (大きい)	500km以上～800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

●強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

災害の記憶を伝える

※碑の写真をクリックすると位置が表示されます



高潮来襲記念碑（山口県山口市秋穂町秋穂東海岸通）

山口市秋穂では死者2人、負傷者8人、家屋の流失倒壊418戸、半壊203戸、浸水856戸などの被害が発生しました。海岸通りに建立された碑の背面には、塩田76町余全滅などと刻まれています。



大風水害受難之碑（山口県山口市名田島）



榎野川河口近くの山口市名田島では、死者32人、家屋の全壊流失68戸、半壊109戸、浸水122戸などの被害を受けました。平成2年に建立された碑の側面には当時の水位が刻まれています。



新地開作大風水害受難之碑（山口県山口市佐山渚）

山口市の佐山渚・新地地区では12戸が全半壊、44人の命が奪われ、約60町歩の塩田、製塩施設、田畑が海水に飲み込まれました。被災50年を機に建立された碑の背面には当時の水位も刻まれています。



厚南大風水害受難追悼之碑（山口県宇部市妻崎開作）



水害高潮記念碑（山口県宇部市妻崎開作）

宇部市厚南地区では、高潮に加え厚東川の堤防決壊により死者・行方不明は300人余りにも及びました。妻崎神社境内には、50回忌にあたる平成3年に建立された追悼の碑と、昭和62年に設置された最高潮位2.3mを示す記念碑が並んで立っています。



風水害救援感謝碑（山口県山陽小野田市の中川2丁目）



各地から寄せられた衣類などの救援物資（宇部市藤山小学校）【宇部市学びの森くすのき所蔵】

小野田地域では、死者・行方不明者約120人をはじめとする大きな被害を受けました。宇部・小野田では、人々の衣類が流され困窮していたところへ全国各地から多くの衣類などが寄せられました。被災1年後、支援に対する感謝を伝えるため救援感謝碑が建立されました。碑の沓石の高さが災害時の高潮の潮位を表しています。